



ひらかわ しみん シンブン

Vol.02

平成31年1月15日(火)発行

ひらかわ市民新聞は
市民記者養成講座発
の市民新聞です。

地域に根付いたスポーツの環境づくり

— 尾上サッカークラブ、強さの秘訣 —

尾上地域の小学生を中心

に活動する尾上サッカーク

ラブ(SC)は、県大会では

上位の成績や昨年末は東北

大会準優勝といった結果を

残し、県外からも注目を集

める。最大の特徴は地域の

大人が指導するクラブチー

ムであること。代表の天内

伸光さんは「サッカーを地

域に根付かせたい」「子ども

たちにスポーツを楽しめる

環境づくり」という思いが

原動力になっていると話す。

81(昭和56)年。小学生

からボールに触

れる環境を作り

より日常的にす

ること、さら

に高い成績を目

指すのが狙い。

そして創設から

3年後には尾上

中学校にサッカ

一部が復活(2

017年4月か

らは15歳以下の

『U-15』チー

ム
せない。
の挑戦にも目が離

くわしくは
4面

目次

1面

- 地域に根付いたスポーツの環境づくり
- 平川湯めぐり紀行【3年ぶりに再開した秘湯】

2面

- 平川縁人【工藤隼人さん】
- 満腹グルメ道【三笠食堂】
- みんなの活動【街を彩る花壇コンクール】

3面

- 平川建物探求
【かわいい亀? 竜? が描かれている『こて絵』】
- ひらかわ調査団
・【尾崎地区に伝わる「神岩」】
・【「まるでヨーロッパ」なオープンガーデン】

4面

- ひらかわ古今
【平賀駅の地下にあったスーパーマーケット】
- 4コマ「いつも、ひらかわ。」
【りんご・りんご・りんご】
- お知らせ
- 掲載記事の詳細

過去のトピックスも
お読みいただけます

ひらかわ市民新聞
web サイト▶



平川湯めぐり紀行

— 3年ぶりに再開した秘湯 —



平賀地域の山奥にたたずむ温泉がある。温川(ぬるかわ)山荘。

平川市の中心部から県道13号、国道102号を通り車で40分程度十和田湖方面へ進んだ温川地区にある秘湯として地元や県内県外などから人気がある。2014年8月に廃業したが、2017年10月に営業を再開した。

浴室はヒバの板を全面に使った扇形のお風呂で、湯がとても柔らかく体の芯から温まる。浴場から見る景色はブナやモミジカエデといった木がずらりと並び、目の前を流れる浅瀬石川のせせらぎや鳥たちの声に癒される贅沢な空間。温川山荘には豊



富なお湯と自然にあふれる景色を生き、疲れた身体やストレスを解消できる温泉と私は感じた。

代表の福地隆史さんはこう語る。「温泉に来ていただいたお客さまには、できるだけ長く湯に浸ってもらい、ゆっくりとくつろげる旅館にしたい。今後はイベントやお祭りなどとタイアップして県内外にPRしていきたい。」

ヒバの板を全面に使用したお風呂に浸かりながらブナ林を眺めることのできるのは青森県でも数少ない温泉の一つだろう。

(記:山内海斗)



看板犬の温(ヌル=メス)

くわしくは
4面



～えんびと～
ENBITO
平川縁人

平川市にゆかりがあり、市内外で活動する人を紹介します

The Person who has the relation for Hirakawa



走りで地元へ貢献

平賀地域杉館地区出身
陸上選手

工藤隼人さん

1994年生まれ。中学生から本格的に陸上をはじめ、黒石高校、亜細亜大学へと進学。卒業後は山形県南陽市にあるNDソフトウェア株式会社に入社。実業団「NDソフトアスリートクラブ」に在籍。平川市小体連1500m記録保持者。

—陸上をはじめたきっかけは？

小学校のマラソン大会で1位になり、「平川市小学校対抗陸上競技大会」に選抜され1500mへ出場しました。そこで優勝したことが陸上をはじめたきっかけになりました。小学校時代は週1回スイミングスクールに通っていたぐらいで、本格的に陸上をはじめたのは中学からです。

—陸上競技を続けている中で一番印象に残っている大会は？

亜細亜大学3年時、関東学生連合チームで出場した「箱根駅伝」です。大会に関わるすべての熱量に圧倒されました。

—現在はどのような活動をしていますか？

所属している実業団では、普段は会社で仕事をしており、人事系のデスクワークが中心です。陸上競技では主に5000mと10000m競技に取り組んでおり、最近では2017年の東日本実業団駅伝に出場しました。

—今回の青森県民駅伝(※)への出場はどうでしたか？

県民駅伝に関しては毎年お誘いいただいているので、監督からOKがもらえればいつでもお手伝いしたいなと思っています。今回久しぶりに走りましたが、チームや関係者の方々の温かい雰囲気や、何よりみんなが楽しそうにしている姿に「地元で走るのも良いもんだな」と改めて思いました。機会があればまた参加させていただきたいです。

(記:樋口麻紀)

※2018年9月に行われた第26回青森県民駅伝競技大会で、平川市は順位を昨年までの28位から19位へと押し上げる快挙となった。その立役者が工藤さんだ。40チーム中、区間4位の走りをみせた。

※本記事は2018年11月の取材時点の情報をもとに作成しました。



満腹グルメ道 三笠食堂 碗ヶ関 自然薯ラーメン

2002(平成14)年頃から村おこしの一環として、碗ヶ関地域の自然薯を使用した「自然薯ラーメン」がテレビや雑誌・ラジオの取材などで取り上げられるようになった。今では碗ヶ関地域の名物となっている。この自然薯ラーメンは碗ヶ関地域の各店舗で提供しているが、今回は「三笠食堂」の自然薯ラーメンを紹介したい。

創業約70年の老舗。笑顔が素敵な阿部夫妻(健次さん・恵美子さん)で営んでいる。店内には、テレビや雑誌・ラジオの取材で訪れた著名人の色紙が飾られており、地元だけではなく県外からも来客がある店だ。



さて、自然薯ラーメンの特徴は2つある。1つは、麺にある。一般的な麺と違い「とろみ」があるのだ。その理由は、麺に自然薯を練り込んでいるためで、そのとろみが食を進めさせてくれる。2つ目は、特徴的なチャーシューだ。なんと、このチャーシューは中央に自然薯が挿し込まれている。麺のとろみとは違ったホクホクとした食感で、自然薯の芋本来のおいしさを味わうことができる。

このラーメンは2つの自然薯のおいしさを1杯で味わうことができる1品となっている。価格は650円。

また、店主のおすすめは、こだわりの味噌(みそ)を使った「味噌ラーメン」(600円)と、近年、注文数が増加している「酸辣湯麺(すーらーたんめん)」(650円)。みなさんもぜひ食べてみてください。

(記:対馬吾郎)

くわしくは4面



平川市では地域や学校での環境美化への取り組みを推進するため、毎年花壇コンクールを開催している。参加団体は6月下旬までに申し込み、審査は平賀公民館長などで構成される5人の審査員が行い、8月に賞が決定される。

今年、22チームの申し込みがあり、『新屋町環境保全会』の花壇が最優秀賞を獲得した。

旧県道13号線沿いの尾上駅近くにある400㎡の広さの花壇には花で大きな虹が描かれており、足を止めて写真撮影する人が多いという。

花壇のデザインを担当したのは代表の山口金彦さん。花植えは会員10人で約2日かけて作業した。花壇の面積が応募団体最大のため、花を植えるまでの下描きに最も苦労したと振り返る。

山口さんは、「大人数で花を植え、管理することで会員同士の会話が増え、地域の交流が活性化した」と話す。また、花壇見物客と会話や交流が生まれたほか、以前はゴミを捨てられていたことが多かったが、花壇を作ったからはほとんどなくなったという。山口さんは「きれいなところにゴミを捨てる人はいないでしょう？」と笑顔を見せる。

みんなの活動

街を彩る花壇コンクール

街中の花壇に足を止め、目を向けてみてはいかがだろうか。参加したい方は、近くの参加団体に問い合わせしてみよう。

(記:今井由美子)



5月に行われた花植えの様子



見ごろを迎えた8月の花壇



平川建物探求

かわいい亀? 竜? が描かれている『こて絵』

平賀地域大光寺地区にある農家蔵に、中世ヨーロッパのローマ風建築、教会、修道院などにある柱頭装飾を思い起こさせるものがある。今回紹介する蔵の外壁に描かれた荒波と亀の一風変わった『こて絵』がその装飾である。

『こて絵』とは左官職人がコテを用いて描いた日本独特のレリーフ(浮き彫り)のこと。鶴や亀などの長寿を願うものや厄除けの願いをこめた、例えば火災除けの波模様などの題材を、左官職人が施工主へ感謝の意を込めて作成する事が多かったそうである。

この『こて絵』は勢いのある荒波の間に亀が甲羅からひようつきな表情をのぞかせ、尾の無数の毛は一本一本細かく描かれている。左官職人の技術の高さだけでなく、芸術的表現力も感じ取ることができる。



蔵のこて絵。公道からも見る事ができる

蔵の所有者である対馬睦子さんは、「平成3年の台風の時、土蔵の屋根が剥がれて修理したが、すでに使うことがなくなっていたので壊すことを考えはじめています。蔵の装飾が素晴らしいと言われるが、維持することにお金がかかり、必要のなくなった蔵まで維持しきれない」とその心境を話す。

同じような『こて絵』があった。中には冠婚葬祭に使う食器などが保管されていたと言われ、部落長だった健一さんは地域の人たちに自由に使用させていたという話も残っているという。

平川市在住の郷土史家・鎌田美春さんによると、「先代への対馬健一さんが明治中期ごろに建てたもの。当時、対馬家では2棟の蔵を持

非常に緻密な「こて絵」が描かれている

(記:大川けい子)



ミステリー

尾崎地区に伝わる「神岩」

みなさん平賀地域尾崎地区にある「神岩(かみいわ)」をご存じだろうか?

その岩は、白岩森林公園に向かう手前にある「薬師のシツコの看板」の左側に、もとは田んぼだという草が生い茂った場所の真ん中にある。高さ約110センチ、周囲約515センチ、重さ約750キログラムの大岩である。

よく見ると大岩に人の足跡をしたくばみのようなものがあり、この足跡こそが「神岩」の由来。話は鎌倉時代にさかのぼる。尾崎地区の山で山伏が修行に励んでいたところ、急に霧が立ち込めてきて目の前が見えなくなつたという。そこに草枕をしたところ、夢に白い着物を着た神様が現れ、「自分が入るお社がないので、あの遠く離れた川向の

岩に飛び降りたという証をみたら、お社を作ってほしい」と言われたそうだ。霧が晴れて、山を下り、岩を見に行ったところ、本当に足跡がついていて、それが現在の場所に残っている大岩であるという言い伝えである。現場を確認したところ、足跡のくばみをはっきりと確認することはできなかった。しかし、山の上から岩までは、12〜13メートルの高さがあり飛び降りることは考えられない。この岩の成り立ちはまさに「神がかっている」と、感じた。なお、20数年前までは足跡がはっきりと確認できたという。また、この不思議な体験をしてお社を建立した山伏が、尾崎地区で歴代宮司を務めている石山家の初代嘉昌院と言われている。

(記:稲葉佑太)



雑草の中央に見えるのが大岩「神岩」



足跡は見えなくなってしまったという

みんなが感じる疑問を調べる

ひらかわ調査団



街の調査

「まるでヨーロッパ」なオープンガーデン

「インスタ映えする」とSNSで最近話題になっている場所があると聞き、潜入してきた。その場所には『OPEN GARDEN』と書かれた看板があり、小路を曲がると、コスモス畑に囲まれたまるでヨーロッパのような建物と庭があった。

運営者の大澤浩明さんは長く弘前に住んでいたが、2000年に小学校の頃に住んでいた平賀地域へ移り住んだ。偶然ホームセンターで安売りされていた3本のバラを植え、見事な花を咲かせたことがきっかけで、薔薇の庭づくりを始めたという。

□コミから広がり、庭を訪れる人が増え、安全面の不安から閉園を考えたこともあった。しかし、ファンから「辞めないでほしい」という要望などがあり、2017年には職場を早期退職し、庭づくりを本格化。「近所の人でも『こんな場所があったんだ』と驚いたり、リピーターが増えたりもしている」と大澤さん。将来は白いガゼボ(洋風東屋)を建て、庭をさらに広げて、訪れた人の生活が少しでも豊かになり、笑顔になってもらえる空間を作りたいと夢を語る。

園内には樹齢約400年の梨の木や青森県最大級の栗の木もあり、四季折々の花々も楽しめる。大澤さんの庭は、笑顔あふれる「平川」を作っていくと感じた。

(記:置指謙自)



大澤浩明さん



コスモス畑に囲まれた風景は、ヨーロッパを思わせる

くわしくは4面

ひらかわ古今

— 平川の今と昔を振り返る —

平賀地域

平賀駅の地下にあったスーパーマーケット

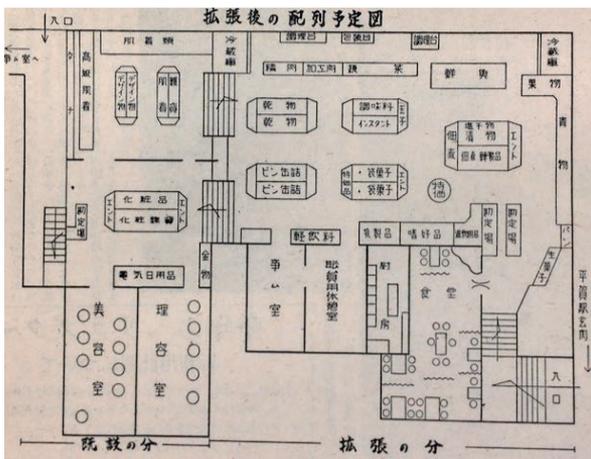
弘南鉄道弘南線・平賀駅にはかつて、地下にあるスーパーマーケットが存在していた。1962(昭和37)

賑やかだった当時の様子

平賀農協が発行していた当時の「組合だより」によると、「農協ストアー拡張工

事を記念し、平賀駅を新しく改築した際に作られたという。完成当初の広さは198㎡(60坪)。食品・日用品・電化製品・化粧品などの生活必需品の売り場と、理容院があった。開業の翌年1963(昭和38)年には、利用率の増加や「商品の種類を増やしてほしい」といった利用客の要望に添えて拡張工事を実施。さらにその1年後には330㎡(100坪)の拡張工事を再び行い、総店舗面積はバスケットボールコート2面ほどの広さの759㎡(230坪)とした。当初から3・8倍もの広さとなったことになる。

ことになる。



店内の配列図(「組合だより」S38.6.15)



郵便ポストと公衆電話のある、色の変わっているタイルが地下スーパーマーケットへの出入口だった

物入荷」といった季節物の案内があったりし、当時の様子が伝わってくる。

平賀地域出身で利用した

事がある50代主婦は「その当時の交通や買物事情を考えると、地下にスーパーマーケットがあったのは斬新だった」と振り返る。平賀駅の近くに住む50代女性は「ラーメンがおいしかった。

鮮魚店の活気があり、新鮮だったのを憶えている」と話す。

「駅の穴」と呼ばれて親しまれた地下のスーパーマーケットはその歴史を閉じた。現在の平賀駅には、当時の痕跡が少しだけ存在する。

今も残る痕跡

そんな地下スーパーマーケットだが、32年前の1986(昭和61)年に、現在の平賀駅にするための新築工事にともなって閉鎖。24年間にわたり「ストアー」や



▲賑わう店内の様子(「組合だより」S38.9.20)

「駅の穴」と呼ばれて親しまれた地下のスーパーマーケットはその歴史を閉じた。現在の平賀駅には、当時の痕跡が少しだけ存在する。駅正面にある郵便ポストの周りだけが、ほかの所と床のタイルの色が違っている。その場所が、地下への出入口だったという。四半世紀

にもわたって農協組合員や地域住民に親しまれた地下のスーパーマーケットの痕跡が、駅の利用者たちを現在も見守ってくれている。(記:松田公平)

お知らせ

平川市民記者養成講座では、今後も引き続き市民記者を中心として市民新聞を作成していきます。平川市内の話題を共有し、楽しく市民新聞の作成を行うほか、その前段階として取材の仕方や記事の書き方等を学ぶことができます。市民記者にはどなたでもなれます。記者の募集や講座の詳細については、市のホームページ等により随時お知らせいたします。また、市内の気になる人やお店、気になることなど調べてほしいものを皆様から募集しています。生涯学習課までメール等で情報をお寄せください。



平成30年度 市民記者養成講座受講者
大川けい子、小野勝也、松田公平、畳指謙自、對馬吾郎、山内海斗、稲葉佑太、齋藤舜也、今井由美子、樋口麻紀、北山詩野 (敬称略・順不同)

掲載記事の詳細

- 尾上サッカークラブ
☎090-4312-2975(天内)
✉onoe.s.c1981@gmail.com
🌐http://onoe-sc1981.sk4players.com/
※体験会もあります。お気軽にお問い合わせください
- 温川山荘温泉
平川市切明津根川1-32
営業時間 不定(営業期間は4月~11月)
宿泊料 12,800円(二人宿泊の場合)
☎090-2450-3852(福地)
🌐https://www.facebook.com/nurukawa/
- 三笠食堂
平川市碓ヶ関71
営業時間 11時~20時
定休日 第2・4日曜日
☎0172-45-2503

■OPEN GARDEN
平川市町居山元314
営業時間 10時~16時
冬期は閉園。ローズシーズンは5月末から
※500円の寄付でコーヒーを提供
☎090-6780-6993(大澤)

発行部数 12,000部
編集 平成30年度 市民記者養成講座受講者
発行元 (お問い合わせ先)
平川市教育委員会生涯学習課
住所 青森県平川市光城2丁目30番地1
TEL: 0172-44-1221
FAX: 0172-44-8780
メール: shougaiakushuu@city.hirakawa.lg.jp

らっもっひらかわ。りんごりんごりんご

作・平力ワ



みなさんはどのタイプですか?